



チリ：皆さまの未来を築く場所

駐日チリ共和国大使館 特命全権大使
グスタボ・アジャレス

グスタボ・アジャレス閣下は、2017年3月に駐日チリ大使として着任。外交官としての経歴は35年間にわたり、その間、シリア、オーストラリア、スウェーデン、イタリア各国におけるポストを経て、在コロンビア・チリ大使として奉職。本国の外務省では、人事局長および官房総局長を歴任。スウェーデンのストックホルム大学欧州法修士号をもつ弁護士。



2017年、チリと日本は外交関係樹立120周年を迎え、同年10月にインベスト・チリと海外投融資情報財団(JOI)は、日本企業によるチリ向け直接投資促進を目的とした相互協力について覚書を交わしました。駐日チリ大使館もインベスト・チリとともに、今後さらにJOIを通じて日本企業の皆さまに情報を発信していきたいと存じます。

日本からの対チリ投資は、チリ経済にとって、その発展のための主要な要素であるとともに、私たちが近い将来成し遂げようとする高度化の優れた手本となってきました。

海外投資を行うとき、安定性(政治、経済、法の支配)、整備されたコネクティビティ(インフラ、デジタルネットワーク、貿易協定)および人材供給力といった厳然たる事実が考慮されることは、日本企業の皆さまの認識するところです。チリは、これらの要素すべてを提供します。

国際通貨基金(IMF)^{注1}のデータによれば、チリは購買力平価ベースで、ラテンアメリカ地域で最も高い1人当たりの国内総生産(GDP)を誇る国(2万4537ドル)です。国連開発計画(UNDP)^{注2}のデータは、チリの人間開発指数(HDI)が同地域で最も高いことを示しています。さらに、世界経済フォーラム(WEF)^{注3}の世界競争力指数(図1)ランキングにおいても、チリは地域内で首位に立ち、他国の追随を許していません。また、グローバル・アントレプレナーシップ・インデックス(GEI)およびIMD世界競争力ランキング(WCC)^{注4}でも、ラテンアメリカ地域内でトップの地位を保持しています。

私たちはこれらを、チリ経済の柱と呼んでいます。こうした実績の相当部分が、海外からの投資によるものです。今私たちは、これらを基盤として、その上に

チリの未来を築き上げていく取り組みを続けていく所存です。

注1：IMFホームページ www.imf.org

注2：UNDPホームページ hdr.undp.org/en

注3：WEFホームページ www.weforum.org

注4：WCCホームページ www.imd.org/wcc

輸出国としてのグローバル志向の人材

チリは、ダイナミックなビジネス環境を有し、外国人に対してきわめてオープンかつフレンドリーで、新たな挑戦を恐れない国です。その専門家や熟練技術者の存在によってIMD世界人材ランキング^{注5}においてラテンアメリカで首位につけています。チリの大学11校が地域トップ50の大学にランクインし、そこでは34万人の学生が学び、毎年5万人の卒業生を輩出しています。

図1 世界経済フォーラム(WEF)による世界競争力指数(2016)



チリは、その全国土が広範なインフラで結合されている一方で、グローバルゼーションにコミットしつつ、世界経済の中に身をおく国です。世界中のどの国よりも多くのFTA（自由貿易協定）を締結してきました。今日、世界64カ国の、43億を超える消費者（世界GDPの86.3%）に対して優先的なアクセスをもっています。また、32の国と二重課税回避に関する協定を締結済みであり、かかる問題への懸念は明らかに解消されています。統合志向およびコネクティビティ技術により、チリは、太平洋同盟への玄関口となることできています。

注5：IMD世界人材ランキングホームページ www.imd.org/wcc/world-competitiveness-center-rankings/talent-rankings-2017

トレンドセッター

チリの鉱業——特に銅と、最近ではリチウム——は、外国人投資家にとって、格好のランディングポイントとなってきたとともに、今でも主要な開発対象部門のひとつとなっています。日本企業およびその他の投資国は、チリにおいて長期にわたり世界クラスのオペレーションを築いてきました。これらすべてが世界中の国々に対して鉱業製品を供給する名だたる企業です。

チリは、その全土で利用可能な高水準のコネクティビティと、高度なインフラ技術へのほぼ普遍的なアクセスにより、包括的に統合されています。そのためチリは、多国籍企業がサービスを展開するためのハブとして選ばれてきました。バルバライソ、テムコおよびコンセプトシオンは、優良なエコシステムを有することから、首都サンティアゴと並んで、グローバル・サービス企業の設置の可能性をもつ都市といえます。

天文学と未来に向けた新しいエネルギー開発

チリ北部のアタカマ砂漠は、地球上で最も透明度の高い夜空と最も乾いた空気とを併せもつ場所です。こうした条件により、チリは世界1位の天文観測地となっています。さらに、このユニークな環境と、年間4000時間に達する日照時間とが相まって、アタカマ砂漠では世界で最大水準の日射量を確保でき、太陽エネルギー生産に最適な条件となっています。近年チリは、ラテンアメリカ諸国による太陽光発電量のうち60%を担う国として、また、より多量の良質な再生可能エネルギー生産の機会を提供する国として評価されています^{注6}。チリの自然環境と、太陽光・風力発電の急速な

発展とにより、近年、官民エネルギーセクターのフォーカスが同部門にシフトされてきました。

風力発電所も、北部のアントファガスタ州とコキンボ州、中部のビオビオ州、ロス・ラゴス州、および最南部のマガジャネス州に設置されています。さらに、チリの海岸線は4000kmを超え、潮力エネルギー開発に最適な環境を形成します。他方、国の中央部と南部を流れる河は水力発電の潜在力を、アンデス山脈は相当量の地熱エネルギー貯蔵力を、それぞれ有しています。チリは2050年までに、そのエネルギー源のうち、持続可能なエネルギーが占める割合を70%まで引き上げる目標を掲げました。送電線は国境を越え、近隣諸国そしてラテンアメリカ地域全体に安価で環境に優しいエネルギーを提供することになるでしょう。チリには、世界における未来のクリーンエネルギー・ラボとなり、ラテンアメリカ地域における気候変動への取り組みをけん引していく用意が整っています。

これらの要素を総合すると、チリは、持続可能性のある産業として未来の成長を形づくるための最初の海外投資先として、重要な市場に位置づけられるでしょう。太陽光発電を使った（環境に優しい）銅の精錬やバッテリー生産における高いコスト競争力の実現、環境に優しい電力によるデータストレージやクラウドサーバーの提供、持続可能な食料の供給といった新たなチャレンジが今日、気候変動シナリオによってもたらされています。各リーダー企業がプロジェクトを発展させ、皆が従う新しいグローバル・スタンダードを生み出していくにあたり、チリは最適な拠点となるでしょう。

注6：国際再生可能エネルギー機関（IRENA）、チリエネルギー省

インベスト・チリ 東京オフィス

インベスト・チリは、チリ向け外国投資のプロモーション・エージェンシーです。昨年10月に、アジアで最初の事務所を東京に開設しました。現在、チリの公的機関と海外投資家を結びつける橋渡し役としての機能を果たしています。東京オフィスでは、各プロジェクトに関するサービスおよびネットワーク管理に加え、関連情報の提供や、アジア企業・投資家の皆さまと投資機会を結びつける活動を行っています。

投資局長 ビセンテ・ピント

vpinto@investchile.gob.cl

インベスト・チリー駐日チリ大使館

〒105-0014

東京都港区芝3丁目1-14

芝公園阪神ビル8階

www.investchile.gob.cl

